

## 東京 IPO 特別コラム

2018年10月16日 Vol.131

### 日経平均高値抜け後の波乱相場の中で

せっかく1月高値を抜けたと思ったら日経平均は早くも波乱の展開。変わりやすい秋相場に投資家の戸惑いの声も聞こえてきそうですが、そうした変動の激しい全体株式相場の中でIPO銘柄は粛々と市場に登場し、投資家各位の判断に従い取引されています。全体相場以上にIPO銘柄の株価変動は激しいのが常ですが、多くはIPO銘柄特有のプレミアムがついての取引です。投資家の思惑は様々ですが、需給の良さを利用した売買がIPO直後の主体でもあり、変動も激しくなりがちです。

2018年のIPO銘柄は11月6日のアクセスグループ・ホールディングス(7042・JQ)まで既に70銘柄が決定し、残り期間で昨年並みに27銘柄が登場すれば昨年よりも多い97銘柄となります。全体相場が堅調なうちにできるだけ多くの企業をIPOさせようと各大手証券の思惑も働くのかも知れませんが、やや過剰気味のIPOになっているのかも知れません。IPO銘柄の株価変動は全体相場にはさほど関係なく個別銘柄の成長性への評価や売出株数などの需給によって影響を受けがちです。とは言え、このところの全体相場の波乱は直近IPO銘柄の株価変動にも影響をもたらしていると言う印象があります。

9月は12銘柄がIPOしてきましたが、公開価格に対する初値の平均上昇率は初値が公開価格を割れた3銘柄(このうち再上場がワールド、ナルミヤ・インターナショナルの2銘柄)を除いた9銘柄で87.3%となり概ね堅調。このうちの4銘柄は2倍以上で初値がついています。また初値から10月16日現在の時価が更に上昇している銘柄がand factory(7035・M)、アズーム(3496・M)、ブロードバンドセキュリティ(4398・JQ)、極東産機(6233・JQ)、フロンティア・マネジメント(7038・M)の5銘柄となっています。このうち省人化関連の極東産機は初値及びその後の安値からIPO後の高値まで2.2倍から2.7倍となっています。一方で公開価格を時価が下回っている銘柄もナルミヤ・インターナショナル(9275・T2)、マリオン(3494・JQ)、香陵住販(3495・JQ)、SBIインシュアランス(7326・M)、ワールド(3612・T1)など5銘柄あり、二極化している状況が見られます。

また、10月のIPOは前半まででイーソル(4420・M)など4銘柄が登場。このうち2銘柄が全体相場波乱の中でも公開価格に対して2倍以上で初値がついています。ただ、波乱相場でIPO後の値動きは概ね停滞気味。業績の変動を見据えながらの株価変動が今後のポイントになります。今月後半は18日のプリントネット(7805・JQ・公開価格1400円)、ディ・アイ・システム(4421・JQ・同1280円)など内需系5銘柄がIPOの予定。米国の金利上昇、米中貿易摩擦に端を発した全体相場の波乱が内需系の多いIPO銘柄に味方する可能性も感じられる昨今の相場状況ですのでむしろ関心が高まる要素が強いのではないかと考えられます。

(東京IPOコラムニスト 松尾範久)